善徳寺だより 225号

デマ

災害や疫病など起こると必ず出てくるのが「デマ」です。最近は、スマートフォンの普及により、個人から情報の発信がしやすくなっていることから、さらにデマが広がりやすくなっています。

心細く思っているところに、それらしい情報が飛び込んでくると、それに飛びついてしまうのが人間の弱いところです。「食べ物」や「トイレットペーパー」の買い占めが、現に起こっています。

最近、人間の弱いところを突いてくる「宗教」が多くあるようです。「お墓の向きが悪いから成仏できない」、「供養が足りていない」、「前世の行いが悪いから不幸がおこる」など、時に電話で相談を受けることがあります。

それらしい人に言われたら、心揺れるのかなと思います。しかし、冷静に考えてください。お寺でのお話でそんな話を聴いたことがありますか？お釈迦様は、そのようなことを説かれておられません。そういった類の事は、「宗教」ではなく、「デマ」です。

そういった「デマ」を「外道」として排除されたのが親鸞さまであり、浄土真宗です。こんなに科学が進歩しながら、「デマ」や「迷信」に惑わされる人の多いこと。

普段から仏法を聴いておくことが要かと思います。

一日も早い新型コロナウイルスの終息を願うばかりです。

誰も、2020年がこのような年になるとは思ってもなかったはずです。海外の話でなく、私たちの近くにその危機は迫っています。

現在、深川組の行事も軒並み中止、善徳寺の行事も止めています。また、付属の善徳寺幼稚園も3月7日から春休みまで、そして、新年度は広島市教育委員会の要請日より早めて、4月14日から休園しています。（どうしてもの方の少数の預かり保育は行っています）

「三密」を避け、外出時はマスク着用、手洗い・うがいをして感染予防に努めましょう。

一人一人の心がけで、「終息」が見えてくるのだと思います。

お勤めのススメ

会議や行事がなくなり、近年になく空き時間があります。ウイルスに関連する心配は大いにありますが、時間がありますので、日常の行動を丁寧にできるチャンスだと思うのです！ そこで、私からは「日々のお参り」の提案をいたします。

まずは、お供え。法事ではありませんから、最小限で構いません。「お仏飯」をお供えください。お米を蓮の花のつぼみの様に盛るのがポイントです。

そして、お荘厳。お荘厳とは、飾りの事です。ロウソク立てや香炉の向きは正しいでしょうか？三本足の一本が前に来ます。そして、阿弥陀さん、お仏飯、香炉がお仏壇の真ん中にに来るようにしてください。阿弥陀さんが斜めをむいておられませんか？

またこの時期、きれいなお花が多いですから、お好きなものをどうぞお供えください。ただし、においの強いもの、とげとげしいものは避けましょう。

そしていよいよお勤めです。姿勢を正し、阿弥陀さんを見つめましょう。何をお勤めするかはお任せします。ちなみにお勤めの時間は、「お正信偈」は約25分、「讃仏偈」は約10分、「重誓偈」は約6分です。「お正信偈」は親鸞さま、「讃仏偈」、「重誓偈」は、お釈迦様のお言葉です。それぞれ経本に、そのお経の内容について書いてありますので、読んでみると良いかもしれませんね。

自分の声を親鸞さま、お釈迦様の声として聴けるようになってきたら上級者。遥か遠くの2500年前のインドでの声が、今ここに届いているのが不思議だと思いませんか。

そして、おなかの底から声をだして、心静かに穏やかに、五感で仏さまの世界を堪能してください。

あなたのためだけに仏さまがおつくりくださった「なもあみだぶつ」が、今あなたに届いています。

今月のさくらさん

最近、少々荒っぽいのです。二つ思い当たることがあります。一つは、小学校が休業中で息子二人が家にいること。朝起きてから、まあ騒がしいこと、仲よく遊んでいると思えば、もう喧嘩。その喧騒の中にいるものだから、やんちゃになるはずです。

そして、もう一つ。最近、さくらさんの毛を短くカットしました。長い毛だと毛玉がたくさんできるし、これから暑くなるからです。しかし、意気揚々と散髪から帰ってきた姿が、サメに毛をむしられた因幡の白兎のピンクの肌のようで、面白く、家族みんなで大笑いしてしまったのです。その時、さくらの表情がいっぺんに曇ってしまいました。それで、怒って暴れているんだろうと思います。そりゃ人間だって、美容院に行って綺麗になったと思っているのに、笑われたら嫌ですよね。家族全員で反省しています。

カット前

カット後

今では、少し毛が伸び馴染んできて、おかげで可愛くなりました。笑ったことを許してくれたのか、少し落ち着いてきました。

行事報告

お手紙でお知らせしたように、3月20日（祝）に予定していた彼岸・納骨堂法要は、新型コロナウイルス感染予防の観点から中止といたしました。

当日は、住職、豆住職2名でお勤めさせていただきました。そして、今年お預かりしていた9体のお骨を分骨用納骨壇へ納めました。いずれの方も、生前仏法を聴くために善徳寺へ足繁く通い、「往生の後には、自分の骨を親しんだ自分のお寺へ安置して欲しい」との篤い思いの方々です。一人ひとりを偲びながら手をあわせました。

お預かりしてから、この日まで本堂の親鸞さまのお傍にご安置しておりました。

なお、経蔵に設置しております納骨壇（分骨用）ですが、それぞれにお名前が書いてありますので、以前に納骨壇をお求めになったかどうか定かでない方は、一度ご確認ください。

近年、分骨される方が増えているように思います。よろしくお願いいたします。　　合掌

大谷本廟について（親鸞さまのお墓　京都）

浄土真宗を開かれた宗祖親鸞聖人は、弘長2年11月28日（1263年1月16日）、弟の尋有僧都の住坊「善法坊」（現在の角坊）において90歳でご往生になり、鳥辺山南辺（現在の本廟の「御茶毘所」）で火葬され、ご遺骨は鳥辺野北辺の 「大谷」 に納められました。

親鸞聖人のご往生10年後の1272（文永9）年の冬、親鸞聖人の末娘である覚信尼公が諸国の門弟の協力を得て、ご遺骨を吉水の北辺に改葬し、六角の廟堂を建て、ご影像を安置されました。廟堂建立の地は、現在の知恩院の山門の北に位置する崇泰院付近とされています。この土地は、覚信尼公の夫である小野宮禅念の所有する土地でありましたが、廟堂建立の翌々年、1274（文永11）年にこの敷地を覚信尼公に譲ったとされています。その後、覚信尼公は1277（建治3）年から3度にわたって、ここを宗祖の墓所として寄進することを東国の門弟たちに通達し、遠方にいる門弟にかわり直接廟堂を護持する任に就きます。これが後の「留守職」です。

この廟堂は「大谷影堂」とも呼ばれ、後に「大谷本願寺」となり、第8代蓮如上人時代の「寛正の法難」（1465年）により破却されるまで、およそ200年間、諸国の門弟や同行によって護持されてきました。以後、第12代准如上人時代の1603（慶長8）年、現在地に移転し、この地を「大谷」と呼ぶようになり、今日まで多くの門信徒の方々により護持されています。

大谷本廟への納骨について

親鸞さまのお墓である大谷本廟には、全国各地から親鸞さまのお傍におりたいと、たくさんの方々のお骨が納められています。納骨には「祖壇納骨」「無量寿堂納骨」「墓地納骨」の 3 種があります。

祖 壇 納 骨

「明著堂」奥にあります親鸞聖人の墓所近くに納骨いたします。納骨は合葬となりますため、後日のお骨の返却はできませんのでご留意ください。

無量寿堂納骨

境内地内にある納骨所「第一無量寿堂」・「第二無量寿堂」に納骨いたします。 深川組で納骨壇を購入しています。出来るだけ、秋の深川組主催の参拝旅行へ参加して、納骨してください。

墓 地 納 骨

大谷本廟の裏手側にある大谷墓地に納骨いたします。

いずれの場合も住職の署名捺印と懇志が必要となります。ご希望の方は、善徳寺までご相談ください。

今後の行事につきましては、「この善徳寺だより」にてお知らせします。皆様におかれましては、お身体、充分にお気をつけください。また、お会いいたしましょう！